

「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議 第5回会合
石破内閣総理大臣メッセージ

委員の皆様、この度は、「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議第5回オンライン会合に御出席いただき、ありがとうございます。

現在、ロシアによるウクライナ侵略、北朝鮮の核・ミサイル開発、更には中東情勢なども相まって、国際社会は分断と対立が進み、核軍縮を巡る情勢も一層厳しいものとなっています。そのような中にあるからこそ、核兵器不拡散条約（NPT）を土台とする国際的な核軍縮・不拡散体制を維持・強化していくことが不可欠です。

私は小学生の時に、広島の被爆状況を記録した映像を見ました。あの衝撃は一生忘れることはありません。あのようなことは二度とあってはならないと、今も強く思っています。「核兵器のない世界」の実現に向かう歩みを止めてはならないという思いは当時から変わりません。

もちろん、「核兵器のない世界」の実現は容易なことではありません。現在の国際社会を見渡せば、核抑止が必要、という現実があります。こうしたことを考えれば、現実の安全保障上の課題に適切に対処しつつ、実践的かつ現実的な取組を着実に進めていく以外に、道はないのです。

我が国は、こうした考えに基づき、これまで、「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」を土台としつつ、今年9月には核兵器用核分裂性物質生産禁止条約（FMCT）フレンズ・ハイレベル立上げ会合を開催するなど、「ヒロシマ・アクション・プラン」の下での取組を一つ一つ積み重ねてきました。

そして来年、我々は、広島・長崎への原爆投下による惨禍を目撃してから80年を迎えます。その大きな節目の年に、国際賢人会議としての提言を国際社会に示すべく、今回の会合で更に議論を深めていただければ幸いです。

分断・対立が進む国際情勢の中だからこそ、核兵器国・非核兵器国双方からの参加者が、自由で忌憚のない議論を通じ、核軍縮を巡る課題に腰を据えて取り組むことのできる国際賢人会議の重要性が一層高まっています。皆様から、その叡智に基づく貴重な提言を頂けることを、楽しみにしております。

今後も皆様と共に、「核兵器のない世界」に向けた具体的な道筋を模索し、国際社会の未来へ貢献していけることを祈念して、私からの御挨拶とさせていただきます。

令和6年11月6日

内閣総理大臣 石破茂